

[課題演習抄録]

子どもが主体的に問題解決を進める社会科学学習指導
—受容的な態度を基盤とした合意形成過程を通して—犬 丸 萌
Moe INUMARU

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：問題解決学習，合意形成

1 研究の目的

(1) 研究の背景

現行の小学校学習指導要領総則編では、「情報を他者と共有しながら，対話や議論を通じて互いの多様な考え方の共通点や相違点を理解し，相手の考えに共感したり多様な考えを統合したりして，協力しながら問題を解決していくこと（協働的問題解決）」が重要であるとしている。また，小学校学習指導要領解説社会編では，問題解決的な学習過程の充実を図る際には，「児童が社会的事象から学習問題を見出し，問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し，追究結果を振り返ってまとめたり，新たな問いを見いだしたりする学習過程などを工夫することが考えられる」としている。

これらのことから，他者と協働し，問題を追究していくためには，問題解決的な過程における合意形成が必要であると考ええる。

他者と協働的に追究することに関して，萩中・米田（2016）の合意形成を図る協働タイプの話し合いに関する研究によると，合意形成活動には，受容的な人間関係が必要であり，他者を受容すること，他者から受容されることが重要であるとしている。

そこで，今後の小学校社会科学学習には，主体的に問題解決を進めるために，受容的な話し合いを通じて子どもたち同士が，それぞれの社会的な見方・考え方を基に話し合い，問題解決に向けた合意形成をする過程が必要であると考ええる。

(1) 研究の目的

本研究では，社会科学学習の問題解決的な過程において，子ども同士が受容的な人間関係を基盤とした話し合いを通して合意形成をし，社会的事象に対する個々の見方・考え方がつながり，深める

ことを重視する。そこで，「受容的な人間関係を基にした話し合い活動を通して，子どもたちが多様な社会的な見方・考え方と出会い，主体的に問題解決を進める」ことを本研究の目的とする。

2 研究の計画

M1 前期	理論研究，文献研究
M1 後期	理論研究，文献研究
M2 前期	理論研究，授業構想作成，指導案作成
M2 後期	実証授業，分析

3 研究の内容

(1) 実証授業の考え方

本実証授業の話し合い活動における合意形成の過程では，子どもたちが多様な視点に基づいて考えを出し合い，他者の考えを新たな考えとして受け入れ共感するという受容的な態度を基盤とするとともに，多様な考えのよさに気づき統合できるようにすることをねらう。

このことを踏まえ，小学校社会科5年単元「くらしを変える情報通信技術」の学習において，ICT活用による生活の変化やその利点を理解することをねらいとした実証授業を行った。

問題解決過程	主な学習過程	話し合いの流れ
学習問題を見出す	○ICTを使う人がふえていることを認識し，本時のめあてをつかむ。 めあて ICTを使う人がふえている理由を考えよう。	<div>個人の見方・考え方を確立する</div> <div>↓</div> <div>自他の見方・考え方を比較し，統合する</div>
個人で追究し解決の見通しをもつ	○身の回りにどのようなICTがあるかを考え，話し合う。	
協働的に追究し問題を解決する	○班で一つICTを決め，それを使う前後の生活を調べ，ICTを活用する人がふえている理由を考える。	
問題を解決し振り返ってまとめる	○班の考えをホワイトボードに書き，全体でまとめる。	

図1. 実証授業の本時過程

図1のように、「学習問題を見出す」「個別に追究し解決の見通しをもつ」「協働的に追究し問題を解決する」「問題を解決し振り返ってまとめる」という問題解決の過程において、「個人の見方・考え方を確立する」「自他の見方・考え方を比較し、統合する」ことができるように話し合い活動を通じた合意形成を行えるようにする。

(2) 実証授業の実際

「個人で追究し解決の見通しをもつ」活動では、子どもたちが身の回りのICTについて調べ、それらが具体的にどのように使われているのかについて次のように話し合った。

T1 みんなはこういうものを見たことがありますか？（nimocaカードを提示）

C1 あ、ICカード。

C2 それコンビニで買い物する時も使える。

C3 バスに乗る時「ピッ」てして乗った。

T2 そうですね、これにお金を入れておいて、電車とかバスに乗る時に機械にタッチしたら乗れますね。

C4 車にはETCカードがあります。

ここでは「ICカード」というC1児の発言を受けて、C2児、C3児は買い物や交通機関で簡単に使える利便性に着目して発言しており、C4児はETCカードをICカードの一つとしてとらえている。つまり、他者の発言を受けて、それぞれがICTの利便性について、学習問題の結論につながる個人の見通しをもっている。

「協働的に追究し問題を解決する」活動では、各班でICTを利用する前と後の生活の変化について調べ、利用する人が増えている理由について話し合った。子どもたちは、「なるほど〇〇さんはそういう考えなんだ」「〇〇さんと同じで…」といった自他の見方・考え方の相違点や共通点に着目するような発言をするとともに、様々な考えを統合して班の考えをプリントに書いていた。このような話し合い活動を通して子どもは「自他の見方・考え方を比較し、統合する」ことができるようになっていくものと考えられる。

話し合い活動の結果、学習問題について次のような結論がまとまった。

「問題を解決し振り返ってまとめる」活動では、

ICTは

- ・早くやり取りができる。
- ・人の手間を省くことができる。
- ・遠いところや海外でも利用でき、便利である。

写真1のように各班が、それぞれの結論をまとめたホワイトボードを使いながら話し合うことを通して、他の班の結論を参考にしながら、ICTを使う人が増えている理由をまとめた。

ここでは、多様な追究の視点から出された各班の見方・考え方を、学習問題に対する結論として学級全体で統合するため、ICTの特徴や利点の相

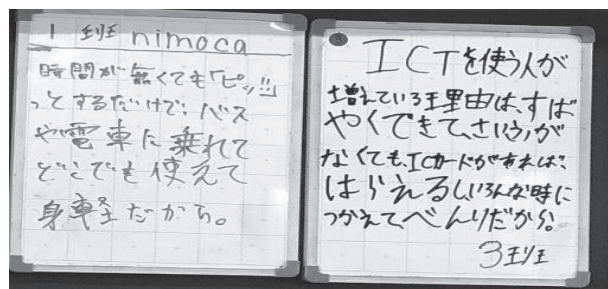


写真1 考えを統合して導き出した各班の結論

違点や共通点に着目して話し合わせた。

授業後のアンケートを見ると、「自分の考えを班の人に伝えることができた」と回答した児童が94%、「班の人の考えを聞いて新しい発見があった」と回答した児童が81%であった。このことから、問題解決のための話し合いにおいて、ほとんどの児童が他者の考えを新たな考えとして受け入れるとともに、多様な考えのよさに気づき、それぞれの考えを統合することができたと考える。

4 成果と課題

○問題解決活動においては明確な問題意識をもって話し合うことを通して、お互いの見方・考え方を比較・統合することが重要である。そのためには、お互いの見方・考え方の違いを明らかにしたり、つないだりして結論を見出していく必要がある。これらのことから合意形成過程では、受容的な人間関係が基盤となることが明らかになった。

●今後は、他の単元や他学年においてもこのような合意形成過程が活用できるのか検証していく必要がある。

主な引用・参考文献

- 萩中・米田 2016 合意形成を図る話し合いの指導に関する実践的研究—必要な能力を内包した教材開発とその活用を中心に— 人間発達学部紀要 第11巻 39-55
- 文部科学省 2015 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編
- 吉村 1996 合意形成能力の育成をめざす社会科授業 社会科研究第45号 41-50